

## 令和4年度 京都府立清新高高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>一人一人のペースを大切にしながら、社会とつながる学びを通して、自立心・主体性を身につけさせ、地域で活躍しようとする生徒を育てる。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底している。</li> <li>・分かる授業とICT活用の推進が進んでいる。</li> <li>・働き方改革における業務の見直しを進めている。（デジタル化と業務見直しアンケート等の実施）</li> <li>・コロナ禍での生徒会活動や文化発表会等デジタルネイティブ世代の取組が充実している。</li> <li>・峰山高校弥栄分校との協力した行事等が実施されている。</li> <li>・施設設備の充実と今後の取組が期待できる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者目線の広報の充実と開かれた学校づくりとして地域連携のさらなる推進</li> <li>・進路実現を目指した取組の一層の推進</li> <li>・教職員の働き方改革の推進と長時間勤務の縮減</li> <li>・PTA活動の充実と参加しやすい活動の明確化</li> <li>・生徒の居場所づくりの一層の推進</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人一人の自立心・主体性の育成を目指した、支援・指導体制の充実</li> <li>2 人権意識の高揚とソーシャルスキルの向上による、学校生活の安定化と支援体制の充実</li> <li>3 分かる授業づくりと指導と評価の一体化の実施</li> <li>4 BYODを活用した授業の実施と情報モラルの徹底</li> <li>5 希望進路の実現に向け、進路指導の充実と就職・進学先との関係作り</li> <li>6 開かれた学校づくりを目指し、地域連携の充実と広報活動の充実</li> </ol>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	地域の人材活用による学びの一層の推進	<p>地域おこし協力隊（地域コーディネーター）と連携し、地域の産業を踏まえた連携先・連携内容の開拓・充実を図り、地域の特性を理解し丹後の魅力を再発見する活動、郷土愛を醸成する活動を実施する。</p> <p>【 年間実施回数 A：10回以上    B：7～9回 C：4～6回    D：4回未満 】</p>	B	<p>総合的な探究の時間や郷土探究で、地域の方々を招いたり訪問したりして、地域の良さや探究の意義を学んでいる。</p> <p>また、丹後万博や高校生みらい会議への参加、「ECHOあしたの畑」等のボランティアにも生徒の参加がある。</p>
	開かれた学校づくりを目指した広報活動の一層の推進、広報手段の検討と内容の整理	<p>授業や各種行事など生徒の活動を、学校HPやフェイスブックでスピーディに紹介する。</p> <p>【 年間HP更新回数 A：60回以上    B：45～59回 C：30～44回    D：30回未満 】</p>	A	<p>HP63回、FB3回更新。各教科・系列の協力により更新回数も増加している。</p> <p>回数だけではなく、閲覧しやすいレイアウトや記事デザインの統一、HP内企画のさらなる充実が課題である。</p>
		<p>学校通信（SeishinTimes）を発行し、公民館掲示や地区回覧板への掲載により、生徒の取組や学習内容を紹介し、生徒の頑張りをアピールする。</p> <p>【 年間発行回数 A：5回以上    B：4回 C：3回    D：3回未満 】</p>	C	<p>現段階で3回発行。今後も機会あるごとに発行し、生徒の頑張りをアピールしていく。</p>
	3系列の特性を生かした校内体制の整備（連携の強化）及び地域連携の充実	<p>各系列の特性を生かし、栽培・加工・販売を通じた清新ブランドの商品開発等、系列を超えて連携した取組の充実を図る。奈具丘祭での発表をはじめ、それらの活動を通して地域とのさらなる連携を図る。</p> <p>【 年間実施回数（系列を超えた取組） A：6回以上    B：4～5回 C：2～3回    D：2回未満 】</p>	D	<p>自然共生、ライフデザインの内容を踏まえた授業を「丹後の農業」で実施している。また「食品製造」では両系列の教員が授業を担当している。</p> <p>今年度の奈具丘祭は地域に開放しないため地域との連携は難しいが、今後、関連機関での販売等を視野に入れた取組を展開していく。</p>
学校運営協議会とPTA組織の協力体制の構築	<p>PTA役員が積極的に会員に参加を促し、PTA行事を活発に行う。PTA行事や学校行事等を通して保護者と教職員が理解と信頼を深め、家庭、学校、地域が連携しながら生徒の成長を見守り支える体制作りを進める。</p>	B	<p>総会、Nagu fest～心・体～への参加等、PTA役員は学校行事に協力的であり、各委員の会議も回数を重ねている。</p> <p>奈具丘祭・会員研修（芸術鑑賞）・あいさつ運動・親子行事等、今後の行事でも役</p>	

		<p>【 年間実施回数 A：年4回以上 B：年3回 C：年2回 D：年1回 】</p>		<p>員の協力、積極的参加が期待できる。</p>
		<p>学校運営協議会を開催し、学習活動や各種行事、PTA活動等についての意見を聞き、効果的な学校経営に活かす。</p> <p>【 年間実施回数 A：年4回以上 B：年3回 C：年2回 D：年1回 】</p>	C	<p>7/15に第1回運営協議会を実施済み。学習活動、各種行事、PTA活動等への意見をいただいた。</p> <p>11/28に第2回、3月に第3回運営協議会を開催予定。</p>
	教育環境の充実、整備	<p>教育環境の充実に向け、施設設備の改修に取り組むとともに、限られた施設の有効活用とICT環境の一層の充実を図る。</p> <p>【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	B	<p>学校評価アンケートを10月中旬に実施予定である。</p> <p>GIGAスクール構想のネットワークに接続できない教室・状況等があり、改善の余地がある。</p>
	安心、安全な教育環境の充実、整備、維持管理	<p>危険箇所の早期発見、教職員全員での情報共有と、その改善・老朽箇所の整備を進め、安心安全な教育環境の維持管理を図る。</p> <p>【 定期的な校内巡視の実施 A：年12回以上 B：年10～11回 C：年8～9回 D：年8回未満 】</p>	B	<p>定期的な校内巡視、危険箇所の点検を実施している。</p>
	教職員の働き方改革の推進と長時間勤務の縮減	<p>行事、業務を精選し、教職員の多忙感、負担感の軽減を図る。またICT活用を積極的に進めることで業務の改善も図り、時間外勤務の削減を進める。</p> <p>【 午後7時30分までの平均出勤率 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 】</p>	B	<p>時間外勤務の削減は大きく進んでおり、平均出勤率は早くなっている。</p> <p>行事・業務の精選がなかなか進んでいないこと、特定教員の長時間勤務が改善できていないことが課題である。</p>
学習支援	観点別評価および指導と評価の一体化の推進による学びの充実	<p>観点別評価および指導と評価の一体化に関する校内研修会を実施し、評価方法の改善および生徒の学びと学びの意欲を向上させるための授業改善を行う。</p> <p>【 年間実施回数（教職員研修・アンケート） A：年3回以上 B：年2回</p>	B	<p>夏季休業中に観点別評価に関する研修を実施済み。それを受けた教職員への意識アンケートを今後実施予定である。</p> <p>引き続き研修や授業実践を積み重ね、内容が伴った、整合性のある学習活動が求められる。</p>

		C : 年1回 D : 年0回 】		
	学習用端末の活用による、わかる授業づくりと、情報モラル教育の推進	ICTを活用した授業に関する校内研修会を実施し、学習用端末等を活用したわかる授業づくりを進める。 ICT機器を安全かつ効果的に活用するために情報モラルや情報リテラシーの指導を行う。 【 授業評価アンケート (4段階評価の全体平均) 項目：ICTを活用した学習活動が充実している。 A : 3.5以上 B : 3.0以上 C : 2.5以上 D : 2.5未満 】	B	ロイロノートの活用方法についての教職員研修を年度当初に実施済み。ほとんどの教員がICTを活用した授業を実践している。
	適性や能力について生徒自身の理解促進、ソーシャルスキルの向上	1年次「産業社会と人間」においてソーシャルスキルトレーニングを取り入れるとともに、自身の興味関心や適性の理解を促し主体的に進路選択する姿勢を育てる。 【 年間実施回数 A : 年20回以上 B : 年15～19回 C : 年10～14回 C : 年10回未満 】	A	毎日10分分割の「産業社会と人間」(イントロ)では火～木にSST実施。 主体的に進路選択する姿勢を育てる取組を、進路LHR(進路支援部)と連動・協働し、内容を共有することで、より効果的になると考えられる。
生徒支援 健康安全	生徒会活動を通じた、生徒の自治意識の高揚	部活動への加入促進と同好会など生徒の主体性を活かした新しい活動の育成を図る。 ボランティア活動への参加を推奨する。 【 学校評価アンケート(生徒)肯定的評価 A : 90%以上 B : 85%以上 C : 80%以上 D : 80%未満 】	A	同好会から部活動への昇進が2団体(イラスト、トレーニング)、新たな同好会が1団体(野球)作られた。ソフトテニス部、卓球部、陸上競技部が全国大会に出場し、活躍した。 丹後100kmウルトラマラソンボランティアには、部活動メンバーを中心に20名の生徒が参加した。 2年次生の生徒会役員が少ないことが課題である。
	命の教育、人権教育の推進	卒業までを見通して計画的に人権学習を進めるとともに、学校生活のあらゆる場面を通じて命を大切にする気持ちを育み、人権意識の高揚を目指す。 【 年間実施回数(人権学習・命の教育等) A : 年4回以上 B : 年3回 C : 年2回 D : 年1回 】	B	A 各年次1回の人権学習を実施済み。1・2年は2学期中にもう1回実施予定である。年度当初に、年次ごとの非行防止教室を実施済み。 今後、年次ごとの性教育、がん教育を実施予定である。

	生徒会活動の軌道化	<p>生徒会行事（球技大会、学校祭など）の計画・運営や、様々な企画に取り組みさせることで、組織作りの大切さと達成感を学ばせる。</p> <p>【 各生徒会行事後のアンケート（生徒）での肯定的評価 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	A	<p>球技大会、学校祭（Nagu fest）を生徒会中心に企画運営し成功させることができた。ほとんどの生徒が積極的に活動に参加し、満足感や達成感を得た。</p>	
進路支援	卒業後を見据えた進路指導の推進	<p>キャリアパスポートや進路ノートなどによる進路学習や進路講演会、就職ガイダンス、企業見学、進学対策講座などのキャリア教育を推進する。</p> <p>【 年間実施回数 A：年5回以上 B：年4回 C：年3回 D：年3回未満 】</p>	A	<p>高チャレの就職本を活用しながらの就職指導、進路部作成の進路シート等による進路学習、適宜学期毎の進路講演会及び進路ガイダンスを実施。さらに充実した進路指導を心がける。</p> <p>進路支援部が1年次の「産業社会と人間」の授業計画に参画するなど、分掌と年次のさらなる連携により、効果的な進路指導が期待できる。</p>	
		<p>インターンシップの実施に向けた企業開拓や、生徒の参加を促す取組を実施する。</p> <p>【 インターンシップ後に実施するアンケート（生徒）肯定的評価 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	A		B
	希望進路の実現	<p>進学・就職指導を充実させ、卒業生全員の希望進路の実現を目指す。</p> <p>【 卒業希望生徒の進路決定率 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満 】</p>	C	<p>卒業生全員の希望進路実現に向けて、担任・チューター・進路支援部など、チーム体制で取り組んでおり、一定の成果は得られている。就職については順調に推移している。</p> <p>一部課題が残る生徒の進路指導に苦慮している現状がある。</p>	
教育相談	感染症対策の充実	<p>新型コロナウイルス感染防止に向けて、引き続き教職員、生徒の意識を高め、「9つの行動様式」（健康観察等）を徹底する。</p> <p>【 啓発回数 A：年12回以上 B：年9～11回 C：年6～8回 D：年6回未満 】</p>	B	<p>「9つの行動様式」を徹底するため毎日健康観察の入力の呼びかけや掲示物などで啓発を行った。換気について、夏場も各HR教室にCo2モニターを設置し、徹底に努めた。</p> <p>朝の健康観察での未入力者の対応が課題</p>	

	健康教育の推進	<p>遅刻欠席者の背景確認とその対応のため、担任との連携をスムーズにする。          歯科保健指導の実施、ほけんだよりの発行など、健康教育を推進する。</p> <p>【 歯科保健指導の年間実施回数          A：3回以上 B：2回          C：1回 D：実施せず 】</p>	A	<p>である。</p> <p>毎日の健康観察ととも遅刻・欠席者の把握の徹底を行い、担任とともに連携を行った。          歯科指導では、ほけんだよりや検診前の事前アンケート、全員への検診結果、奈具丘祭での掲示などで啓発や意識付けを行った。</p>
	個別支援・指導の校内体制づくり、合理的配慮・教育相談・特別支援教育に対する理解の促進	<p>朝の連絡会、部長会、職員会議で、教育相談の進捗状況を発信し、生徒の情報を学校全体で共有する。          相談の受付から全校体制での支援の終結までの流れを明確にする。          まなび生活アドバイザーの専門性を十分に活用する。</p> <p>【 連絡会での情報共有について年度末に実施するアンケート（教員）肯定的評価          A：90%以上 B：85%以上          C：80%以上 D：80%未満 】</p>	B	<p>昨年度に比べると、生徒の情報や支援検討会議の内容を全体に報告する機会は増えている。どこまで共有・浸透しているかは年度末にアンケート実施で調査予定。対象生徒が多く、学校全体での共有が難しい状況がある。          相談の受付から終結までの流れは、部内ではある程度明確になっているが、全校に伝わっていない。          まなび生活アドバイザーについては、困難ケースへの助言という活用が中心。昨年よりは連携ケースが増えている。          生徒支援（特別支援を含む）と進路支援相互の観点から、学校体制としての重点の据え方について教員間でのコンセンサスを構築したい。</p>

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--